

今週のみことば

「自分のできることをしました」

(申命記 15 章 1～11 節)

「必ず彼に与えなさい。また、与えるとき物惜しみをしてはならない。このことのゆえに、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださるからである。」(15:10)

(マルコの福音書 14 章 1～9 節)

「彼女は、自分にできることをしたのです。埋葬に備えて、わたしのからだに、前もって香油を塗ってくれました。」(14:8)」

今日のメッセージ要旨

◎私たちは自分のしていることを自己判断し、他の人と比べて自己卑下しやすいのです。しかし、物事を正しく見、評価して下さる御方がおられるのです。

◎申命記15章の主題は「どのように主の子どもらしく生きるべきか」で、14章に続いて教えられている。内容は「7年ごとに債務者の負債を免除し、また奴隷を解放する規定」です(出エジプト22:10-11, レビ25:2-7)。これはイスラエル人に対してという条件付きで、異邦人が除外されている(3, 12、免除する者に過大な負担とならないためか)。「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」(レビ19:18)の原則の適用である。与えることは、主から与ったものを分け合うこと。そうすることで互いの間で「貧しい人がいなくなり」、皆が祝福に与ることができる。

◎マルコの福音書14章は内容的に10分解出来る。①1-2節、イエスを殺すたくらみ、②3-9節、ひとりの女がイエスに香油を注ぐ、③10-11節、ユダの裏切り、④12-21節、過越の食事と裏切る者への警告、⑤22-26節、主の晩餐、⑥27-31節、ペテロの否認の予告、⑦32-42節、ゲッセマネの祈り、⑧43-52節、イエスの逮捕、⑨53-65節、議会の前でのイエス、⑩66-72節、ペテロがイエスを知らないと言う。

◎「過越祭」は毎年ユダヤ歴のニサンの月(太陽暦3～4月)の15日にイスラエルの民のエジプト脱出を記念して守られ、その前日にエルサレム神殿で犠牲の小羊を屠り、日没後に「種なしパン」などと屠られた小羊を食べ、その後7日間「除酵祭」(種なしパンを食べる祭)を守っていたのです。その2日前に祭司長、律法学者達は「どうしたらイエスをだまして捕らえ、殺すことができるだろうか」と策略をめぐらし、それがユダの裏切りによって実現するのです。

◎そのような背景の中で「ナルドの香油」の出来事が起こったのです。それはイエス様がベタニヤのツアラアトに冒されたシモンの家で食卓についておられた時、ひとりの女性が高価なナルドの香油[300デナリ(一年の給与分)に相当]をイエス様に注いだのです。すると弟子たちの何人かが厳しく咎めたのですが、イエス様は「そのままにしておきなさい。なぜこの人を困らせるのですか。わたしのために、りっぱなことをしてくれたのです」とこの女性を擁護されたのです。この女性はイエス様の身に起こることを先取りして行った敬愛の行為であったのです。イエス様は「この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用意にと、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれたのです」と語られたのです。即ち、この女性は切迫した一回きりの最終的に出来ることをしたのです。

◎貧しい人に対する施しは許される時に出来るが、主イエス様の上に起こることを真実に受けとめて愛をもって成したその動機と行為を主は評価されたのです。